

『ふたつの名前を持つ少年』

2015年8月15日公開!

～戦後70年、アウシュビッツ収容所開放70周年の夏に贈る感動作～

株式会社東北新社（東京都港区・植村徹社長）は映画『ふたつの名前を持つ少年』（原題：『RUN BOY RUN』）を配給、8月15日にヒューマントラストシネマ有楽町ほか全国劇場で順次公開致します。

本作はナチスドイツの手から逃れた8歳のユダヤ人の少年が、スリリックというユダヤ人名を捨て、ポーランド人孤児コレクと名乗り、森に潜み、また、食べ物を求めて農村を渡り歩きながら、たった一人で3年もの月日を生き抜いた実話を基にした感動作です。この度、終戦記念日である8月15日に公開が決定、メインビジュアルも完成しました。

原作は1996年に国際アンデルセン賞*を受賞したウーリー・オルレブによる『走れ、走って逃げろ』（2003年岩波書店）。監督は1994年に『Schwarzfahrer』（黒人のドライバー）でアカデミー賞短編実写賞を受賞したペペ・ダンカート。原作との出会いを「見る者の記憶に20年後も残り続ける映画となる素材を見つけた瞬間」と語っています。

過酷な運命を力強く、前向きに生き抜く主人公役をアンジェイとカミルの双子の兄弟が愛らしい笑顔で演じきりました。

*国際アンデルセン賞：児童文学への永続的な寄与に対して贈られる賞。「小さなノーベル賞」とも言われる。

■ Story

ポーランドのユダヤ人強制住居区から脱走した8歳の少年スリリックは森へと逃げるが、飢えと寒さで行き倒れとなり、ヤンチック夫人に助けられる。スリリックを匿った夫人は少年の誰をも魅了する愛らしさと賢さに気づき、一人でも生き延びられるよう“ポーランド人孤児コレク”としての架空の身の上話を覚えこませ、追っ手から逃がす。夫人に教わった通りに嘘の身の上を語り、寝床と食べ物を求めて農村を一軒ずつ訪ね歩くコレク。無邪気な笑顔で物怖じしないコレクに救いの手を差し延べる者、ドアを閉ざす者、利用しようとする者……。優しい家族に受け入れられ束の間の平穏を得ても、ユダヤ人であることがばれてしまい、追い立てられるように次の場所へと逃げるコレク。ユダヤ人に生まれただけで、何故こんな目に合わなくてはならないのか。生き別れになった父との約束を胸に、明日の希望を信じてコレクの生命の旅は続く。

■ 『ふたつの名前を持つ少年』

監督：ペペ・ダンカート

出演：アンジェイ・カクツ、カミル・カクツ、
ジャネット・ハイン、ライナー・ボック

原題：『RUN BOY RUN』 / 2013年 / カラー / 107分

原作：ウーリー・オルレブ作『走れ、走って逃げろ』

母袋夏生訳 岩波書店刊

配給：東北新社 Presented by スターチャンネル



東北新社会社概要

代表者：植村 徹

設立：1961年4月1日

資本金：24億8,700万円

事業内容：総合映像プロダクション

<http://www.tfc.co.jp/>

© 2013 Bittersuess Pictures

2015年8月15日（土） ヒューマントラストシネマ有楽町ほか全国ロードショー